

企業名：日本ゼオン

レポート名：コーポレート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。ゼオングループは新中期経営計画全社戦略として「カーボンニュートラルとサキュラーエコノミーを実現するものづくりへの転換を推進する」、「既存事業を磨き上げる、新規事業を探索する」、「舞台を全員で作る」の三つを挙げている。一つ目の目標については、現代社会が強く意識しなければならない SDGs を考慮したものとなっていてゼオングループが最も力を入れている部分だといえる。2つ目の目標は、創業 70 周年を迎え世界でのシェアも誇るゼオングループをより良い企業にするという向上心が表れている。三つ目の目標は、社会の期待に対して社員全員の力を結束させて応えていくという会社の理念を表したものである。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。独自技術 GPB 法・GPI 法から展開する C4、C5 の 高度総合利用展開モデルや徹底したクリーン樹脂製造技術（光学用樹脂、医療用樹脂）、原料樹脂の設計から独自技術による部材製造まで一貫通貫した開発・製造力（光学フィルム、ライフサイエンス事業等）、そして顧客の開発ならびに評価をシミュレーションできる技術（エナジー材料）。これらの高度な技術力によって他社を凌駕する製品を作ることができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。新中期経営計画全社戦略の中の「既存事業を磨き上げる、新規事業を探索する」に表れているように、ゼオングループは他者への優位性を保持したままさらに唯一無二の技術を生み出し優位性を高めようと試みている。既存事業では成長率が特に高い高機能樹脂と電池材料を強化するとともに、他の既存 SBU でも ROIC 9.0%を目標に現状よりも資本効率を高めていく。また、高機能樹脂は 2021 年 7 月に水島工場の生産能力増強工事を完了し、今後レジリエンス強化のため新たな生産拠点も検討していく。さらに、電池材料はリチウムイオン電池の性能向上に貢献する新製品群を成長市場に投入していく。高機能樹脂と電池材料以外の既存 SBU では、差別化できる製品の強化やコストダウン、新用途探索、生産効率向上などを通じて資本効率の向上に努めていく。次に新規事業では市場の伸びが期待できる 4 つの分野「CASE・MaaS」「医療・ライフサイエンス」「情報通信(5G・

6 G)」「省エネルギー」を重点分野と定めて集中的なリソースを割き、探究心を持ちつつ計画的な企業理念がうかがえる。現に2019年比では新規事業売上高がプラス500億円となっており、優位性に継続性があることの証拠としては十分なものである。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ゼオングループは新中期経営計画全社戦略において「舞台を全員で作る」という目標を挙げている。「全ての従業員に Well-being と Freedom を提供する企業」を目指し、より多くの人生の選択肢を提供することで、2030年に従業員エンゲージメント75%を目指している。SDGsの観点から心身ともに健康な状態が持続すること、より多くの選択肢が選べる状態であることなど、従業員がよりよい状態になることを目指しているのである。そのための施策として、時間と場所にとらわれない働き方の実現や、福利厚生カフェテリアプランなどの制度面の再整備、キャリアデザインやリカレント教育の充実など多くの選択肢を提供し、社員の意欲に応えている。2021年4月には、テレワークを正式に制度化した。このように時代と共に変化する働き方を提供して生産性を上げ、全員が事業に参加できる体制をとっており、前述のように競争優位性の持続性も期待できるゼオングループでは自らの人的資本の価値向上を見込めると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

大方必要な情報がまとまっていて写真も多く使われており、わかりやすい報告書となっていた。しかしデータの比較という部分が少しわかりにくく、もう少し表やグラフを使うべきだと感じた。